

2017年5月

事業実施状況の報告について

「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」実行委員会

代表 照屋寛公

「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」実行委員会の事業実施状況について、別紙のとおり報告いたします。

本実行委員会の名称は、助成願書の提出時は（仮称）「伝統木造技術と親泊郎展」実行委員会としておりましたが、事業内容の具体化にともない、表記のように変更いたしました。

本事業は、事業の記録冊子の作成をもって完結する予定ですが、重要な事業である「沖縄大工・親泊次郎の仕事展」を無事実施することができましたので、実施状況について、別紙のとおり現時点の報告をいたします

報告の内容は、下記のとおりです。

記

1. 「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」の準備の過程と実施状況
2. 「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」に関する報道資料

以上

2017年5月

## 事業実施状況の報告

「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」実行委員会

本報告は、(仮称)「伝統木造技術と親泊次郎展」実行委員会として2016年3月10日に(公財団)おきぎんふるさと振興基金への助成願書を提出した事業の実施状況の報告です。

実行委員会の名称は、企画の実施段階において「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」実行委員会とすることとなりました。

本事業は、2016年9月4日から9月18日に実施した「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」をもって主たる事業実施を終えておりますが、その記録冊子の作成まで実行委員会の活動を継続することとしております。

本報告は、記録冊子の編集過程の2017年5月末時点での事業報告となります。

記録冊子の完成時には再度、最終事業報告および会計報告をいたします。

### 1) 「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」の準備段階

2015年6月に、親泊次郎さんの仕事と活動を知る有志により(仮称)「伝統木造技術と親泊次郎展」(以下、「親泊次郎展」)の実施を目標とする実行委員会を結成した。実行委員会は建築関係者および親泊次郎さんの仕事の拠点である南風原町の南風原文化センターのスタッフにより構成された。

実行委員会は事業の検討を行い、2016年度に「親泊次郎展」を実施することを目標とし、資料の整理と調査活動を行うこととした。

2015年9月以降に、親泊次郎さんとの懇談を重ね、ご本人の経験、建築に対する考え方をうかがい資料の作成を進めた。

2016年5月に企画展の計画を検討し、「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」を2016年9月4日から9月18日に南風原町立南風原文化センター企画ホールで実施することを定め、具体的な展示の準備作業を開始した。

### 2) 「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」の展示準備

2016年5月から展示直前まで、具体的な展示物の準備を行った。

それまでに資料化したものの整理に加えて、親泊次郎さんご自身が木造建築模型をすでに作成されており、さらに伝統建築の小屋組および継手仕口を説明するための模型の作成を進められた。

展示準備の過程で模型および伝統建築に関して親泊次郎さんが建築専攻の大学生に解説する場面を映像で記録したが、一連の映像を編集したものを映像作品として、会場で展示することとなった。

### 3) 「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」の実施

#### ①展示内容

展示物は当初の予定よりも点数が増え、以下のものを展示した。

- 1) 親泊次郎さんの年譜（経歴と仕事）
- 2) 親泊次郎さんの語録（ご自身の歩み、建築について）
- 3) 沖縄の歴史的木造建築物について
- 4) 建築用語と民俗について
- 5) 親泊次郎邸について  
（建設過程と現況写真、図面、板図、解説）
- 6) 桃林寺について  
（親泊次郎さんが作成された各種図面、詳細原寸図他）
- 7) 伝統建築の軒先模型（親泊次郎さん作製）
- 8) 継手仕口の解説模型（親泊次郎さん作製）
- 9) 実際に使用した大工道具
- 10) 映像資料「木造技術を教える親泊次郎さん」
- 11) 首里城右掖門、真壁ちな一、聖現寺、瀬底拝所、小祿神社

パネル44枚および多数の写真、模型7点、図面・板図等の資料、映像資料の上映、大工道具に至る展示となった。

#### ②企画展の実施

予定通り、2016年9月4日（日）から9月18日（日）まで、「沖縄大工（ウチナーゼーク）親泊次郎の仕事展」を南風原町立南風原文化センター企画ホールにおいて実施した。

平日の日中を含めて多くの来場者が来場があった。実行委員会の想定を越える多数の入場者があり、記帳された人数が来場者の一部であることから推定して、計3000人程度の方の来場があったものと思われる。

町内の一般の方、建築・建設業関係者、建築を学ぶ学生、親子連れなど、様々な方が来場していた。服装から建設業関係者と判断される方やその団体、歴史に関心のある方の複数回の来場、継手仕口模型を体験する親子、映像資料の親泊次郎さんの説明を聞きながら、その場で解説を加える年配の元大工さんなど、展示を見て体験する姿も多様なものがあった。

期間中の9月17日（土）には、親泊次郎さんの自宅の特別見学会を行い、参加希望者とともに会場から木造三階建ての自邸を訪れた。

以上については、実行委員会から新聞紙上でのお知らせを行うとともに、期間中に新聞、テレビ他のマスコミ取材を受け、多方面で紹介された（別紙資料参照）。

#### 4) 企画展の実施後の記録集作成

企画展の内容については、資料として残す価値のあるものが多く、各種資料と展示物の写真記録などを整理する活動を続けることとなった。記録集の作成は本報告の時点で継続しており、できるだけ早い時期に編集と印刷を行い、各方面に報告する予定である。

# 沖縄大工の技 伝える

## 南風原 親泊次郎の仕事展



親泊次郎さん

【南風原】沖縄の木造建築にこだわり、技術継承に尽力

してきた大工、親泊次郎さん(83)の業績を紹介する「沖縄大工 親泊次郎の仕事展」が4日、南風原文化センターで始まった。親泊さんは「先輩から習い、独学で学んだ木造のすごさを伝えたかった。」



建築のプロに、ぜひ見てもらいたい」と呼び掛けている。18日まで(午前9時〜午後6時)、入場無料。水曜日休館。親泊さんは石垣市出身。1960年代から木造風鉄筋コンクリートの寺社建築、首里城のやぐら「右掖門」の復元、古民家の保存・修理などに携わってきた。

展示では、柱に差す木「貫」の上や下に小さな木をはめ込み、抜けないようにする沖縄独自の技術「蟻上げ」「蟻落し」などを、親泊さん自作の模型や写真で説明。手掛けた建物や、気候風土と木造技術の関係をパネルで紹介するほか、大工道具も展示している。

沖縄市から来場した建築業廣山正明さん(46)は「木だけで組み上げる技術がすごい。伝統技法は残した方がいい」。企画に協力した有志7人の1人、国建の平良啓さん(61)は「先人が築き上げた技術を学び、関わってほしい」と後進に期待した。

木造の技術を伝える模型に見入る来場者ら。4日、南風原文化センター

# 技術巧み、沖縄大工

## 「親泊次郎展」が開幕 南風原文化センター

親泊さんが制作した部分模型や詳細な図面、写真、映像など沖縄の歴史的な木造建築を紹介している「沖縄大工親泊次郎の仕事展」南風原町喜屋武の南風原文化センター



【南風原】「沖縄大工(ウチナーセーク)親泊次郎の仕事展」同実行委員会、南風原文化センター主催が4日、南風原町喜屋武の同センターで始まった。社寺建設や木造住宅など数々の建築に携わった親泊さんの巧みな建築技術を部分模型や写真、映像などで紹介。沖縄の歴史的な木造建築を分かりやすく解説している。18日まで。

### 伝統木造建築を紹介

石垣市出身の親泊さん、沖縄独特の工法を取り(83は、中学卒業後に船)入れた。大工として3年間修業を積んだ後、木造建築の道に進んだ。1965年に「次郎組」を立ち上げ、沖縄の伝統的な木造の復活に努めてきた。首里城の復元や糸満市の真壁ちなりの保存復元にも携わった。99年には那覇市長田に木造3階建ての自宅を建設。木のつなぎ方を

実行委員会の委員で、学で建築を学び、2級建築アトリエトレッペン代表で1級建築士の照屋寛公さんは「沖縄の伝統建築は、風土や文化に人間が合わせるように造られている。親泊さんは独り、同委員で国建常務取締役の平良啓さんは「大工役を取り上げたこれまでにない企画展。若い人たちに伝えたい貴重な記録だ。民間で木造の工法はほとんど使われなくなっているが、今のライフスタイルに合わせて継承して欲しい」と参観を呼び掛けた。「親泊次郎の仕事展」は午前9時から午後6時。水曜休館。入場無料。

## 寄稿



照屋 寛公

# 親泊さん仕事 沖縄大工の粋

て修業を積み、その後沖縄本島で、建築大工へかじを切っている。また次郎さんは、建築設計士の資格を持つ向学心の高い大工でもある。石垣島で修業の頃、当時船の設計図は、英語の仕様で描かれていたという。辞書片手に読み解きながら船を造ることとで、図面を読むトレーニングをし、設計図が描ける大工になったのだらうと、話を聞かせて

初めてお会いした時、名刺の「ウチナーセーク・親泊次郎」の大きめの文字が印象的だった。現在84歳の次郎さん、建築への情熱は熱く、建築に関わる若い人に語る言葉に大工技術の奥深いメッセージがある。皆は気さくに「次郎さん」と呼んでいる。その経歴が実に個性的で、石垣島に生まれ16歳から3年ほど造船所で船大工とし

もらいながら感じた。33歳で建設業「次郎組」を立ち上げ、造った代表的な建築に天久聖現寺、南風原喜屋武の次郎アパート、那覇市小祿神社、首里城右掖門復元、糸満市真壁ちなーの保存修理がある。その中で庄巻は、那覇市長田の木造3階建てのご自宅。通りに面する小さなアプローチの向こうに赤瓦の門、こぢんまりとした3

階部分は、まるでお城の天守閣の様相のご自宅は、表から目を引く。中に入ると、温かみのある雲囲気の部屋、かすかな木の香りと繊細な大工技術の高さに言葉が失ってしまう。また、次郎さんは故郷石垣島への思いも熱く、時々島に帰省し桃林寺（臨済宗妙心寺派、昨年開山400年を迎えた）の本堂の詳細な実測図面や原寸図を

作成している。先人が造った建造物を調査し図面を残すことで、将来の改修工事に役立ててほしいとの思いがあるという。南風原文化センターで「沖縄大工（ウチナーセーク）親泊次郎の仕事展」が18日まで開かれている。次郎さんの年譜、自作の図面の数々、ビデオによる仕事ぶりの紹介。また当時の大工が施工用に作製していた板図やかなな、ノミの大工道具が興味深い。中でも目を引くのが、構造部にくぎ一本も使わない模型である。木造の屋根や柱と梁の納まりに大工技術の粋がわかる。また畳6枚大の壁面いっぱい張られた桃林寺の実寸大の図は、迫力を感じる。

次郎さんが「若い人に木造建築の技術の高さに好奇心を持ってほしい」と語ったのが最も印象的。「ウチナーセーク・親泊次郎」の技と先人の知恵や工夫の数々に触れてみてください。（那覇市、建築家・建築アトリエ・トレッペン代表、58歳）



南風原文化センターで開催中 「親泊次郎展」



# 伝統的な木造の技に触れる 沖縄大工(ウチナーセーク)親泊次郎の仕事展

9月4日から南風原文化センターで始まった「沖縄大工(ウチナーセーク)親泊次郎の仕事展」(主催:親泊次郎展実行委員会、南風原文化センター)。社寺建設や木造住宅など、数々の建築に携わった親泊氏の巧みな建築技術を、部分模型や写真、映像などで紹介し、沖縄の歴史的な木造建築を分かりやすく解説。今月18日まで開催されています。

【沖縄大工(ウチナーセーク)親泊次郎の仕事展】  
●日時=9月18日(日)まで 午前9時~午後6時  
●場所=南風原文化センター(南風原町字喜屋武257)  
●入場料=無料 ●問い合わせ先=電話098-889-7399

## 人物について

### 親泊次郎氏の略歴

親泊次郎氏は1933年石垣町(現石垣市)出身。県内屈指の「沖縄大工(ウチナーセーク)」として、数々の

の木造建築を手がけてきた現役の木造大工です。社寺建築をはじめ、真壁ちな(糸満市)などの文化財の保存修理、そして一般の木造住宅の設計・施工にも多数従事。99年には着工から2年の月日をかけて、沖縄

独特の工法を取り入れた木造3階建ての自宅を築きました。

70年近くに及ぶ親泊氏のキャリアのスタートは、船大工でした。中学卒業後、石垣町の造船所で修業を積み、18歳の時に沖縄本島へ移住。当面は引き続き、糸満町(現糸満市)の造船所などで船づくりの仕事を行いました。

先輩の大工から誘いを受け、木造建築の道に進んだのは、本島へ移ってから約2年後。すぐに実力を買われ棟梁として活躍する傍ら、日雇いであちこちの現場にも積極的に足を運び、腕利きの職人らに教えを請い、技術を身につけていきました。



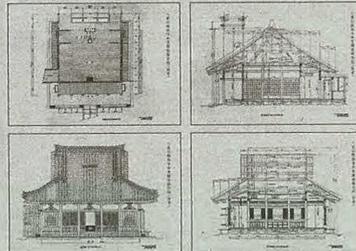
上/今回の展示は9月4日から開催。一般の人をはじめ、現役の大工や建築関係者ら、連日多くの人が訪れています 左/寺や神社の軒先の木造模型

55年には、石垣から出てきた両親のために、首里に木造瓦葺きの家を新築。そして65年に「次郎組」を設立しました。これまでに携わった主な建築

物として、今回の企画展では、68年天久山聖現寺(那覇市)、75年瀬長拝所(豊見城市、現豊見城市)、83年小祿神社(那覇市)、2000年首里城右掖門(うえきもん)、07年真壁ちなーの概要が、それぞれ紹介されています。また桃林寺(石垣市)の補修や再建に役立てようと、本堂を2年半かけて実測調査した、詳細な図面も展示されています。



右・中/桃林寺本堂の現況図面。間取り、各部位の寸法、小屋組の仕組みなどが詳細に記されており、本堂の建築的な特徴が分かります 左/親泊次郎氏の板図。仕口の方法や組み合わせる順序などが墨で描かれています



パネル展示では、親泊次郎氏が自らの生い立ちを語ったインタビュー記事と、前述の主な関連建築物の概要を紹介。さらに沖繩の伝統的な木造建築全般について、穴屋(あなや)と貫木屋(ぬちじや)の構法の違い、柱・梁(はり)の樹種、集落形態、地鎮祭や石敢当の説明など、民俗学的な視点を交えた解説コーナーもあり、建築に触れる機会が少ない人でも理解しやすい企画構成になっています。

パネル展示では、親泊次郎氏が自らの生い立ちを語ったインタビュー記事と、前述の主な関連建築物の概要を紹介。さらに沖繩の伝統的な木造建築全般について、穴屋(あなや)と貫木屋(ぬちじや)の構法の違い、柱・梁(はり)の樹種、集落形態、地鎮祭や石敢当の説明など、民俗学的な視点を交えた解説コーナーもあり、建築に触れる機会が少ない人でも理解しやすい企画構成になっています。

**展示物の紹介**

**自ら制作した木造模型や貴重な図面資料が多数**



1. 展示室中央に並べられた木造模型。隅の柱と貫、五寸角の柱と敷居・鴨居など。2. パネル展示では、まずは親泊次郎氏の生い立ちについて解説。3. ビデオコーナー。親泊氏の見事な大引きの技。4. 三寸五分角の柱と大引きの木造模型。かみ合わせの仕方についても説明されています。



するコーナーでは、建築中から完成後の状態までを撮影した記録写真や、自身で制作した図面、大工が墨付けや加工を行うために木の板に設計図を描いた板図(いたず)などの資料を多数展示。その隣にあるビデオコーナーでは、親泊氏による木造技術の解説や実演の様子をビデオで放映しており、いすに座ってゆっくりと鑑賞することができます。

**企画展開催の経緯**  
**大工にスポットを当てたあまり例のない試み**

今回の企画展が開かれるようになったいきさつは、4年前に親泊氏が「若い人たちに沖繩の伝統的建築技術を引き継ぎたい」との思

いから、前述の桃林寺の現況図面を南風原文化センターに持ち込んだことがきっかけでした。南風原町は親泊氏にとつて、40代の頃に手がけた2棟のアパート兼住宅があり、自身の木材工場を構えるゆかりの土地です。図面を受け取った、南風原文化センター学芸員の平良次子氏は、即座にその価値を見いだし、琉球大学工学部の清水肇教授や、同じ石垣島出身の建築家・照屋寛公氏らに相談。さらに、かつて真壁ちなりの保存・修理の調査・設計を担当し、親泊氏と交友の深い株式会社国建・常務取締役の平良啓氏らにも声がかかり、今回の主催者である実行委員会が2年前に立ち上がりました。

今回の企画展が開かれるようになったいきさつは、4年前に親泊氏が「若い人たちに沖繩の伝統的建築技術を引き継ぎたい」との思

その後、親泊氏とも相談しながら、少しずつ展示資料の準備やパネル原稿の作成に着手。桃林寺の現況図面は、持ち込んだ10枚のうち6枚が掲示されています。



職人の思いが染み込んだ、さまざまな種類の木工道具を展示

同委員の平良啓氏は、「大工を取り上げた企画展は、これまであまり例のない試み。次郎さんの仕事ぶりに合わせて、沖繩の木造建築の歴史的な背景や民俗学的な側面を知ってもらうことで、若い大工・建築関係者をはじめ広く一般の人にも、その技術的・歴史的価値を継承してほしい」と話しています。

## 大工の技に触れる 「親泊次郎の仕事展」南風原町で18日まで

「沖縄大工」親泊次郎の仕事展（主催・同実行委、南風原文化センター）が、南風原町文化センターで開かれている。船大工を経て60年以上にわたり、木造住宅や寺社建設など数々の建築に携わってきた親泊さん（83）。会場ではその巧みな建築技術を、親泊さん自ら製作した部分模型や写真の展示、映像などで紹介。沖縄の伝統的な木造建築が分かりやすく解説されている。

実行委メンバーで、国建常務取締役の平良啓さんは、「若い人に伝統と技術を継承したいというのが親泊さんの思い。多くの人に足を運んでほしい」と呼び掛けた。

木造模型の組み立て・取り外しの体験もできる。南風原町から訪れ、体験した玉城千博さん（20）は、「木を組み合わせて丈夫な構造にする技術はすごい。大切にしていきたい」と感じたと話した。会期は9月18日（日）まで。



▲会場の様子。建築関係者から、学生、幼稚園児まで幅広い年代の人々が訪れている  
▶木造模型の組み立て、取り外しを体験する参観者



沖縄独自の木造技術の紹介を興味深そうに見入る来場者ら＝11日午後、南風原文化センター



# 親泊次郎の業績紹介

南風原文化センター 石垣市出身の沖縄大工

【南風原】石垣市大川出身で県内屈指の大工として造船や社寺建築などに携わってきた親泊次郎さん（83）の業績を紹介する「沖縄大工（ウチナーセーク）親泊次郎の仕事展（同実行委員会、南風原文化センター主催）が同センターで開かれている。18日まで。

親泊さんは、1965年に建設業の「次郎組」を創設。那覇市にある天久山聖現寺や小祿神社など木造風鉄筋コンクリート造の複雑な装飾をあしらった寺などを施工。また、2000年には、石積みの上に木造のやぐらが乗る首里城の「右掖門」の修復に棟梁として関わり、継手や仕口など伝統的な工法で復元した。

故郷への思いが強かった親泊さんは、将来の改修工事に役立ててほしいと桃林寺本堂の実測図面や原寸図も作製した。展示では、これら図面のほかに、沖縄建築の伝統的な工法「蟻上げ（蟻落し）」などを説明した親泊さん自作の模型や手がけた建築物や親泊さんのメッセージなどがパネルと写真で紹介されている。

同展は午前9時から午後6時。入場無料。水曜日休館。